

おはようございます。今日の聖書箇所は使徒言行録 3 章ですが、まず今までの学びを振り返ってみましょう。弟子たちが聖霊に満たされた後、ペトロは立ってイエスの復活の良き知らせを宣べ伝える大胆なメッセージを語りました。ペトロのメッセージに応答して、三千人以上の人たちが洗礼を受け、そこから新しい信徒たちが教会に毎日加えられました。使徒 2:46 はこのように語ります。「2:46 そして、毎日ひたすら心をつつにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、」この箇所です。このように、教会が始まった当初、家庭集会で食事を分かち合う交わりがあり、また神殿でも毎日集まっていたわけです。

祈りと礼拝と教えのために神殿に集まることは、おそらく長い間エルサレムの教会の日常だったでしょう。弟子たちはユダヤの信仰を捨てて新しい宗教を興したわけではないので、これは驚くことではありません。むしろ、彼らにとってイエスに信仰を置くことはユダヤの信仰を完成させることでした。何百年、何千年という長い間、ユダヤの人々はメシアの来臨を待ち望んでいました。そして、その預言で何度も聞いている待ち望まれたメシアがイエスであることがわかり、弟子たちはイエスによる信仰の完成を見出したのです。預言は成就しました。メシアが来られたのです。そして、弟子たちが徐々に気づいていったのは、イエスがユダヤの民の救い主であられるだけでなく、異邦人の救い主でもあられるということでした。



後に、コリント第一 3:16 で、パウロはコリントの教会の人々にこのように呼びかけています。「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。」私たちがイエスを主であり救い主として信じる時、聖霊が来て私たちの心の中に住んでくださいます。神の霊が私たちの内に住まわれるのですから、私たちは主の神殿です。そういうわけで、エルサレムの神殿は必要でなくなります。しかし、当時はまだ役に立つものでしたし、神も神殿が残されることをお許しになりました。しかし、紀元 70 年までには、神のご計画のうちには有用でなくなり、神はローマ帝国によってこれが破壊されることをお許しになりました。

今日、エルサレムを訪れると、神殿の丘には岩のドームというイスラム教の神殿やアル=アクサー・モスクが建っています。保守派の聖書学者たちは、終わりの時についての預言に基づいて、ユダヤの神殿が再建されなければならないと信じています。そして、再建される神殿の青写真として、エゼキエル書 40-47 章が引用されることがしばしばあります。イスラム教徒とユダヤ人の間に政治的、宗教的対立があることは明らかです。こういった対立は、ユダヤの神殿を再建しようという動きを困難にするでしょう。ただし、もしそれが神のご計画であるなら、必ずそうなるでしょう。しかし、それについての議論はさておき、今日の聖書箇所、使徒言行録 3:1-10 をお読みしましょう。



I. 聖書朗読 使徒言行録 3:1-10 (新共同訳)

3:1 ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。 3:2 すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。 3:3 彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。 3:4 ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。 3:5 その男が、何かもらえんと思つて二人を見つめていると、 3:6

ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」 3:7 そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、3:8 躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。 3:9 民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。 3:10 彼らは、それが神殿の「美しい門」のそばに座って施しを乞うていた者だと気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた。

II. 教え

使徒 2 章で、弟子たちは聖霊による洗礼を受けました。使徒 2:43 はこのように語ります。「すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業と行われつつあったのである。」そして、使徒 3 章では、不思議な行われつつあったひとつの出来ごとについての詳細が書かれています。では、もう少し詳しく見てみましょう。

使徒 3:1 「ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。」ペトロとヨハネがともにいた場面はよく聖書に登場しますが、これはそのひとつです。このふたりのように、友だち同士がいっしょに主のために仕えられるのは、祝福だと思います。ルカ 5:10 によると、ペトロとヨハネは、イエスの弟子になる前、ガリラヤ湖で漁師仲間だったようです。それ以来、ふたりはイエスとの素晴らしい旅路をともにしてきました。ふたりは、イエスが群衆に教え、奇跡を行われた時もイエスとともにいました。イエスが十字架にかかられたときも、近くにいました。また、イエスがよみがえられた時、一番に墓を訪れた人たちの中にこのふたりもいます。

ヨハネ 20:3-4 を見てみましょう。マグダラのマリアが弟子たちのところへ行き、イエスの墓が空っぽだったと伝えると、「20:3 そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。20:4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。」とあります。この「もう一人の弟子」とは誰でしょう。聖書学者は口をそろえて、これはヨハネだと言います。ペトロとヨハネは長い旅路をともにしてきました。そして、今日の聖書箇所でも、彼らが信仰と宣教の旅における新しい一ページを開こうとする姿を見ることができるといえるでしょう。

使徒 3:2 「すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。」使徒 4:22 から、この男性が少なくとも 40 才であったことがわかります。彼は生まれつき足が不自由で、おそらく物乞い以外に稼ぐ方法がわからなかったのでしょうか。神殿の門のそばにすわり、物乞いをすることで、彼は生計を立てていました。そして、長年同じ場所にすわっていたので、定期的に神殿を訪れる人は皆、彼のことを知っていました。

イエスも公生涯の間、よく神殿に行かれたので、この男性のことを知っておられたはずで、ここで疑問がわきます。なぜイエスはもっと早く彼を癒されなかったのでしょうか。このようなことを考えるとき、私たちはとても大切なことを学びます。神の完全なご計画において、神のタイミングは御心と同じく重要だということです。神は私たちの悩みや問題をすぐに解決してくれるべきだと、私たちは思いがちです。そして、神の子どもたちに癒しや祝福がもたらされるのは神のみこころにかなっていることを示すために、みことばを引用したりもします。しかし、そう祈る中で、神の時という点を忘れてしまいがちなのです。神の時について理解や納得ができないこともあります。それでも常に神の時を信頼するのが賢明でしょう。神は早過ぎも遅過ぎもしないお方だからです。神のタイミングは常にパーフェクトなのです。



物乞いをしていたこの男性は、神殿の門のそばに長年すわっていました。今の時代も物乞いの仕方は同じでしょうが、おそらくこの男性は通行人を見ながら、時折、「お恵みを」と小銭などを恵んでくれるように頼んだのでしょう。生活費を稼ぐのに望ましい方法とは言えません。けれども、これでちゃんと生活できたようです。そうでなければ、長年同じ場所で物乞いをし続けなかったでしょう。家族か友人に毎日同じ場所へ連れてきてもらえば、食べていくことができたのです。とは言え、なんとかやっていくことはできても、このような生き方を望む人はあまりいないでしょう。

そんなある日、ペトロとヨハネが来て、「わたしたちを見なさい」と言いました。この男性の心の中で期待がふくらんだことでしょう。わざわざ注意を払うように言ってくるなんて、何か良いものをくれるに違いない、ごちそうか、いや金貨かもしれない、と思ったことでしょう。けれども、どうなりましたか。神の完全なタイミングに従って、この物乞いの男性がすばらしい祝福を受け取る時がやってきたのです。**使徒 3:6**「**ペトロは言った。『わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。』**」そして、ペトロはこの男性の手を取り、彼を立ち上がらせました。すると、たちまち彼の足や足首がしっかりして、この人は生まれて初めて自分の足で立つことができたのです。彼は立って歩き始めました。そして、飛び上がって、神を賛美しました。

ノエルさんは、その様子をこのように描いてくれました。ペトロとヨハネが笑顔で両側に立ち、ぼろを着た人が神の前に喜んでいます。神が彼を癒されました。生まれて初めて、この人の体は健康体となったわけです。天の御使いたちが賛美に加わり、明るい太陽がこの男性に人生の新しい夜明けが来たことをあらわしています。そこには喜ぶべき大きな理由がありました。この後、男性は「美しの門」から神殿の境内に入りました。すると、そこにいた人は皆、彼が門のそばで長年物乞いをしていた人だと気づきました。



現代人は、この話を読んで、その重要な部分を簡単に見落としてしまいます。この男性は、いつも門の外で物乞いをしていました。おそらく彼は、門の中に入ることを許されていなかったからでしょう。この時代、障害のある人たちは差別されていました。当時、障害や病気は罪が原因だと人々は信じていたからです。というわけで、この男性は、汚れた罪人で神殿の境内に入るのにふさわしくないとされていました。しかし、彼が癒されると、境内に入ってはいけないと言える人はいなくなり、彼は境内へ、そして神殿そのものへと入っていきました。これがどの門であったかについては、いくつかの説がありますが、「美しの門」という通称にふさわしい壮麗なニカノル門だったという説が有力です。



それがどの門だったにせよ、この男性は喜びながら入っていきました。**使徒 3:8**「**躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。**」彼は、ペトロとヨハネから何かもらえると期待していましたが、実際にもらったものは、自分の想像をはるかに超える祝福でした。彼は体の癒しを受けました。もっとすばらしいことに、社会から、そして人々から受け入れられました。しかし、これにも増してすばらしいものを、彼は受けたのです。

癒しは、神がこの男性を受け入れ、すべての罪が赦されたことを証していました。どうしてそうなったのでしょうか。**使徒 3:6**をもう一度見てみましょう。「**ペトロは言った。『わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。』**」ペトロの財布は空っぽでした。しかし、彼が貧しかったということではありません。**使徒 2:44-45**にあるように、弟子たちはすべてを共有していて、誰も乏しいもの

はいませんでした。けれども、その日ペトロは持ち合わせがなかったようです。もしかしたら、神はそのことを用いて、その男性を癒すようにペトロに語られたのかもしれませんが。ペトロは、足の不自由なその人を以前にも見かけたことがあったでしょう。そして、それまでは小銭をあげていたのかもしれませんが。しかしその日、ペトロは聖霊に導かれ、神の完全なタイミングに従って、この人が癒される時が来たことを知りました。

ペトロは聖霊の促しに従い、この人にこう命じました。「**ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。**」ペトロは、自分自身の決断で行動していたのではありません。聖霊の導きに従い、「**イエスの名によって**」行動したのです。こう言うことによって、ペトロは自分がイエスの代理として行動していると宣言していました。この人に癒しをもたらしたのはイエスです。それは、体の癒しだけではありません。イエスは、罪の赦しと永遠の命というたましいの癒しもくださったのです。

イエスの名によって語ることの重要性を見過ぎさないでください。クリスチャンである私たちは、良い働きをし、人に使えるように召されています。しかし、自分の名によってそうするなら、神の御国にとって役に立ちません。自分の名によって働きをするようには召されていません。また、教会や宣教団体の名によって働くようにも召されていません。神の名によって働きをするようにも召されていないのです。それは良いことですが、それだけでは不十分です。クリスチャンである私たちは、イエスの名によって働きをするように召されているのです。それを常に明らかにする必要があります。イエスとその基にあることを人々に知らせなければなりません。



ペトロがユダヤの議員や長老の前で取調べを受けたとき、神がその男性を癒されたと言ったなら、問題にならなかったでしょう。しかし、ペトロはイエスの名によって癒しがなされたことをはっきりさせなければならないと知っていました。少し聖書の先の箇所に行ってしまいますが、**使徒 4:8-12** を見てみましょう。「**4:8** そのとき、ペトロは聖霊に満たされて言った。「民の議員、また長老の方々、 **4:9** 今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に対する善い行いと、その人が何によっていやされたかということについてであるならば、 **4:10** あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。 **4:11** この方こそ、／『あなたがた家を建てた者に捨てられたが、／隅の親石となった石』／です。 **4:12** ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」

非常にはっきりしています。すべてイエスのなされたことです。イエスだけが主です。イエスなしに、救いはありません。兄弟姉妹の皆さん、私たちは覚えておかなければなりません。イエスの名に栄光を帰さないものは、クリスチャンの働きではありません。世界中の多くのクリスチャンが、よい人生を送って人の役に立てば、世に証していることだと思っているようです。けれども、イエスの名を私たちが口にしなければ、私たちの良い働きがイエスのためであることが人にわかるのでしょうか。イエスの名を口にすることなく善を行い、恵まれない人に施しをしても、人は、あなたがとても良い人だと思うだけでしょう。それなら、イエスではなく、あなたが感謝も栄誉も受けてしまいます。それはクリスチャンの働きではありません。クリスチャンの働きは、私たち自身ではなくイエスに栄光と誉れをささげるのです。

アッシジの聖フランシスコの言葉として多くの人に愛された名言があります。「いつも福音を伝えよ。必要とあらば、言葉も用いて。」この名言は、言葉なしに善行をする働きの正当性を主張するために用いられることがあります。しかし、聖フランシスコ自身は多くの言葉で説教を語ったことを忘れてはいけません。彼が語らなかったときというのは、イエスの名によって人に仕えていることをみんながすでに知っていたという状況がほとんどでした。私たちが修道服を

着て大きな十字架を持ち歩いていけば、私たちがイエスの名によって仕えていることを言葉で言わなくても人にわかってもらえるかもしれません。しかし、そうでなければ、言葉なしにそれが伝わることはないでしょう。



III. 結び

ペトロとヨハネは、大胆にイエスの名を宣べ伝えました。私たちも同じようにすることを学びましょう。けれども、本当のところは、私たちはペトロやヨハネよりも、足の不自由だった人との共通点が多いのではないのでしょうか。私たちの多くは、昔の古傷によって悩まされ、自由に主に仕えることができません。多くの場合、それは精神的、霊的な重荷であり、体が不自由ということではないでしょう。しかし、その重荷が何であれ、それが足かせとなって、主とともに自由に歩んだり、主の臨在の許に喜んで近づいたりすることを阻んでいるなら、どうか今日その重荷を主に明け渡して癒しを受けてください。ペトロでさえも、主を知らないと言ったことで絶望してしまったことがありました。けれどもイエスは彼を癒し、立ち直らせてくださいました。今日の聖書箇所を見ると、立ち直ったペトロは聖霊に満たされ、この日神殿で、イエスの栄光のために力強く用いられたのです。

イエスは、あなたにも同じことをしていただきます。今までの人生にどんなことがあったとしても、どんな傷を持っていても、イエスはあなたを癒し、自由にすることができます。ヨハ 8:31-32 にはこうあります。「**8:31 イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。 8:32 あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」**自由になりたいなら、イエスを見上げてください。イエスを信じ、しっかりイエスにつかまってください。イエスにつき従い、みことばの教えを守ってください。そうすれば、あなたも喜び踊って、主イエスのすばらしさを明かすようになるでしょう。祈りましょう。

IV. 祈り

天の愛する父よ、あなたのすばらしい恵みとあわれみを感謝します。あなたの愛は、完全で永遠です。主イエスよ、十字架上であなたは私たちの身代わりとなって命をささげてくださいました。私たちの罪をあなたが担い、私たちが赦しを得、豊かな命を得られるようにしてくださいました。そして、驚くべきあなたの愛を証明してくださったのです。私たちがあなたのもとへ行き、あなたがその血潮で代価を払ってくださった救いというすばらしい賜物を受け取ることができるように、助けてください。私たちは弱く、重荷を負っています。どうか、私たちを解放してください。あなたの子である人々を縛っているものを打ち破り、病を癒し、捕らわれ人を自由にしてください。あなたの愛と恵みをこの場所に注いでください。そして、私たちが喜び、あなたのすばらしい御業のすべてに感謝をささげますように。あなたの聖霊で私たちを満たしてください。そして、私たちがイエスの名によって大胆に働きをすることができますように。イエスの名によって祈ります。アーメン。